

【冬期間における水抜き方法】

県営つつじが丘アパート 3号棟

冬期間、水道管の凍結の恐れがある場合や、長期間不在にする場合に行ってください。

◇玄関ドア横のパイプシャフト内の給水弁と、室内の水抜弁、湯抜弁を操作します。

水抜き手順

1. パイプシャフト内の「①給水弁」を、「時計回り」に止まるまで回してください。
2. 室内床(※)の「②水抜弁」の蓋を開け、ハンドルを引上げ「時計回り」に止まるまで回してください。
3. 次に「③湯抜弁」の蓋を開け、ハンドルを引上げ「反時計回り」に止まるまで回してください。
4. 各蛇口を開き、配管内の水を抜きます。トイレはレバーを2回程度操作しタンク内を空にしてください。
5. 洗濯機に接続の給水ホースは一度除外して水抜きを行い、水抜完了後に復旧してください。
6. 各蛇口から水滴が落ちなくなったら水抜き完了です。水抜きが終わったら、事故防止のために全ての蛇口を閉めておくようお願いします。

通水手順

1. 各蛇口が閉まっていること、洗濯機の給水ホースがつながっていることを確認してください。
2. 室内床(※)の「③湯抜弁」の蓋を開け、ハンドルを引上げ「時計回り」に止まるまで回してください。
3. 次に「②水抜弁」の蓋を開け、ハンドルを引上げ「反時計回り」に止まるまで回してください。
4. パイプシャフト内の、「①給水弁」を、「反時計回り」に止まるまで回してください。
5. 各蛇口をゆっくり開き、水を出してください。いきなり蛇口を開くと水と空気が飛び散る場合がありますのでご注意ください。

※各弁類のハンドル操作は「全開・全閉」として下さい。中途半端な開閉状態は、漏水の原因となります。



※ 上の写真は、101号室のものです。

1・4号室は単独のパイプシャフトですが、2・3号室はパイプシャフトを共有していますので、よく確認して給水弁を操作してください。

(※)台所流し台の前、またはトイレのドア前。
ハンドルの中央に【水抜】【湯抜】の表示があります。

給湯器の凍結防止について

お住まいのお部屋には、給湯器が設置されております。凍結による故障は自己負担となりますので、先の水抜き操作に加え、以下のことをお守りください。

- ① 冬期間中は、長期不在の場合も、室内の契約ブレーカーを切らないでください。
また、室内分電盤の『給湯器及び凍結防止ヒーターのブレーカー』は、絶対に切らないでください。
- ② パイプシャフト（水道メーターがあるところ）に、凍結防止ヒーターがある場合は、コンセントが差し込まれているか確認し、抜けている場合は差し込んでください。
給湯器がベランダにある場合は、その周りの配管にも凍結防止ヒーターが巻いてあります。
どちらの場合も冬期間は必ず『コンセントが抜けていないか確認』をお願いします。
- ③ 給湯器のコンセントも抜かないでください。（給湯器本体のヒーターが作動するため）

※ **追い焚き機能の付いている浴槽**は、循環口より5cm以上になるように水を溜めておいてください。（残り湯で構いません）

∴給湯器が外気温を感知して、自動で追い焚き配管内の水を循環し、凍結を防止します。



追い焚き機能がない場合は、水は溜めておかないでください。

- その他詳細については、各取扱い説明書をご確認ください。
- 長期不在などにより電力の契約解除を行う場合は、事前に住宅センターにもお知らせください。